

①教職課程コアカリキュラム対応表(一覧)

教職課程コアカリキュラム対応表(一覧)

【中学校・高等学校】

大学名	岡崎大学
学部・学科等名	教育学部・子ども教育学科

<各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) 中学校>

ページ	各科目に含めることが必要な事項	対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)
2-3	各教科の指導法(保健体育)	教科教育法(体育)		
		保健体育科教育法Ⅰ		
		保健体育科教育法Ⅱ		
		保健体育科教育法Ⅲ		

<各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) 高等学校>

ページ	各科目に含めることが必要な事項	対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)
4-5	各教科の指導法(保健体育)	保健体育科教育法Ⅰ		
		保健体育科教育法Ⅱ		
		保健体育科教育法Ⅲ		

※ 中学校・高等学校「外国語(英語)」に係る事項は「外国語(英語)コアカリキュラム対応表」に記載すること。(本表には記載不要。)

<教育の基礎的理解に関する科目等>

ページ	各科目に含めることが必要な事項	対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)
6	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論		
7	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職論		
8	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育経営論		
9	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育と発達の心理学Ⅰ		
10	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育		
11	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	カリキュラム論		
12	道徳の理論及び指導法	道徳の指導法		
13	総合的な学習(探究)の時間の指導法	総合的な学習の時間・特別活動の指導法		
14	特別活動の指導法	総合的な学習の時間・特別活動の指導法		
15	教育の方法及び技術	教育の方法と技術(ICT活用を含む)		
16	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導の理論と方法		
17	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法		
18	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒・進路指導の理論と方法		
19	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育の方法と技術(ICT活用を含む)		
20	教育実習	教育実習指導(中・高)Ⅰ 教育実習指導(中・高)Ⅱ 教育実習(中・高)Ⅰ 教育実習(中・高)Ⅱ		

②教職課程コアカリキュラム対応表

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

全体目標: 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

(1)当該教科の目標及び内容

一般目標: 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

- 到達目標: 1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
 3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。
 4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
 5) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。
 ※中学校教諭及び高等学校教諭

(2)当該教科の指導方法と授業設計

一般目標: 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

- 到達目標: 1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
 2) 当該教科の特性に応じた情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
 5) 当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
 ※中学校教諭及び高等学校教諭

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	項目 到達目標 /授業回	(1)					(2)								
		1)	2)	3)	4)	5)	1)	2)	3)	4)	5)				
授業科目名及び授業回(ページ番号)	教科教育法(体育)	1	○		○										
		2			○	○		○	○						
		3				○		○	○						
		4				○		○							
		5		○					○	○					
		6		○					○	○					
		7		○					○	○					
		8		○					○	○					
		9		○					○	○					
		10		○					○	○					
		11		○					○	○					
		12												○	
		13												○	
		14												○	
		15												○	
	(P.29)														
	保健体育科教育法I	1	○	○	○		○		○						
		2	○	○											
		3				○	○								
		4		○	○	○	○								
		5					○	○							
		6						○			○	○			
		7									○	○	○		
		8							○	○	○	○	○		
		9									○	○			
		10									○	○			
		11									○		○	○	
		12									○	○			
		13									○	○			
		14									○		○	○	
15			○		○		○	○				○	○		

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	項目 到達目標 /授業回	(1)					(2)						
		1)	2)	3)	4)	5)	1)	2)	3)	4)	5)		
授業科目名及び授業回(シラバスのページ番号)	保健体育科教育法Ⅱ	1	○	○									
		2				○	○						○
		3		○		○		○		○			○
		4											○
		5											○
		6											○
		7							○	○	○		
		8									○		
		9							○	○	○		
		10											○
		11											○
		12				○			○	○	○		
		13			○		○						○
		14							○				○
	(P.31)	15			○								○
	保健体育科教育法Ⅲ	1	○										
		2				○			○				
		3	○										
		4				○			○				
		5				○			○				
		6				○			○				
		7							○		○		
		8							○		○		
		9	○										
		10			○				○				
		11			○								○
		12							○	○			○
		13					○			○			○
		14		○			○						○
	(P.33)	15	○	○	○	○	○						

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②教職課程コアカリキュラム対応表

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

全体目標: 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

(1)当該教科の目標及び内容

一般目標: 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

- 到達目標: 1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
 3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。
 4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
 5) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。
 ※中学校教諭及び高等学校教諭

(2)当該教科の指導方法と授業設計

一般目標: 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

- 到達目標: 1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
 2) 当該教科の特性に応じた情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
 5) 当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
 ※中学校教諭及び高等学校教諭

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	項目 到達目標 /授業回	(1)					(2)									
		1)	2)	3)	4)	5)	1)	2)	3)	4)	5)					
授業科目名及び授業回(シラバスのページ番号)	保健体育科教育法Ⅰ (P.30)	1	○	○	○	○	○	○								
		2	○	○												
		3				○	○									
		4		○	○	○	○									
		5					○	○								
		6						○		○	○					
		7								○	○	○				○
		8						○	○	○	○	○	○			○
		9								○	○					
		10								○	○					
		11								○		○	○			
		12								○	○					
		13								○	○					
		14								○		○	○			
		15	○		○		○	○				○	○			
	保健体育科教育法Ⅱ (P.31)	1	○	○												
		2				○	○								○	
		3		○		○		○		○					○	
		4													○	
		5												○		
		6												○		
		7								○	○	○				
		8										○				
		9								○	○	○				
		10											○			
	11											○				
	12					○			○	○	○					
	13				○		○					○				
	14								○		○					
	15			○								○				

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②教職課程コアカリキュラム対応表

特別活動の指導法

全体目標: 特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。
 学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

*養護教諭及び栄養教諭の教職課程において「道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容」を単独の科目として開設する場合は、(1)を習得し、そこに記載されている一般目標と到達目標に沿ってシラバスを編成する。なお、その場合は学習指導要領の内容を包括的に含むこと。

(1)特別活動の意義、目標及び内容

一般目標: 特別活動の意義、目標及び内容を理解する。

- 到達目標: 1) 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。
 2) 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解している。
 3) 学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。
 4) 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。

(2)特別活動の指導法

一般目標: 特別活動の指導の在り方を理解する。

- 到達目標: 1) 教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解している。
 2) 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解している。
 3) 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。
 4) 特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。

特別活動の指導法	項目	(1)				(2)			
	到達目標 /授業回	1)	2)	3)	4)	1)	2)	3)	4)
授業科目名及び授業回(シラバスのページ番号)	総合的な学習の時間・特別活動の指導法 (P.56)	1							
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								
	9								
	10	○	○	○	○				
	11	○	○	○	○	○	○		
	12			○	○			○	
	13			○	○		○	○	○
	14					○	○	○	
	15					○	○	○	○

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②教職課程コアカリキュラム対応表

教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

全体目標: 教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的な知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的な知識を含む)を身に付ける。

(1)教育相談の意義と理論

一般目標: 学校における教育相談の意義と理論を理解する。

- 到達目標: 1) 学校における教育相談の意義と課題を理解している。
2) 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。

(2)教育相談の方法

一般目標: 教育相談を進める際に必要な基礎的な知識(カウンセリングに関する基礎的な事柄を含む)を理解する。

- 到達目標: 1) 幼児、児童及び生徒の不応答や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。
2) 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。
3) 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。

(3)教育相談の展開

一般目標: 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。

- 到達目標: 1) 職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。
2) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。
3) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。
4) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。

項目	(1)		(2)			(3)			
	1)	2)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	4)
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	到達目標 /授業回								
授業科目名及び授業回 (シラバスのページ番号)	1	○							
	2	○	○	○					
	3		○	○					
	4			○	○				
	5					○	○		
	6					○	○		
	7					○	○		
	8						○		
	9							○	
	10								○
	11							○	○
	12							○	○
	13							○	
	14								○
	(P.62)	15							
各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。									

②教職課程コアカリキュラム対応表

進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

全体目標:

進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。

(1)進路指導・キャリア教育の意義及び理論

一般目標: 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。

到達目標: 1) 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解している。
 2) 学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができる。
 3) 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。

(2)ガイダンスとしての指導

一般目標: 全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。

到達目標: 1) 職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解している。
 2) 主に全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解している。

(3)カウンセリングとしての指導

一般目標: 児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。

到達目標: 1) 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができる。
 2) キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明することができる。

進路指導及び キャリア教育の理 論及び方法	項目	(1)			(2)		(3)	
	到達目標 /授業回	1)	2)	3)	1)	2)	1)	2)
授業科目名及び授業回 (生徒・進路指導の理論と方法) (P.60)	1	○						
	2				○			
	3							
	4							
	5							
	6							
	7							
	8							
	9							
	10						○	
	11				○			
	12							
	13			○				
	14	○	○					○
	15	○	○	○	○	○	○	○
シラバスのページ番号)								

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

③教職課程コアカリキュラム対応表(教育実習)

教育実習(学校インターンシップ(学校体験活動)を含む。)

確認欄

全体目標: 教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。
一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。

*教育実習の一部として学校インターンシップ(学校体験活動)を含む場合には、インターンシップ(学校体験活動)において、(2)、(3-1)もしくは(3-2)のうち、3)4)の目標が達成されるよう留意するとともに、教育実習全体を通して全ての目標が遺漏なく達成されるようにすること。

(1)事前指導・事後指導に関する事項

一般目標: 事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。

- 到達目標:
- 1) 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
 - 2) 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。

<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

(2)観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項

一般目標: 幼児、児童および生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校(園)の幼児、児童又は生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。

- 到達目標:
- 1) 幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
 - 2) 指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。
 - 3) 教育実習校(園)の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
 - 4) 学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。

<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

(3-1)学習指導及び学級経営に関する事項 ※小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭

一般目標: 大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。

- 到達目標:
- 1) 学習指導要領及び児童又は生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
 - 2) 学習指導に必要な基礎的技術(話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。
 - 3) 学級担任の役割と職務内容を實地に即して理解している。
 - 4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童又は生徒と関わるすることができる。

<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

(3-2)保育内容の指導及び学級経営に関する事項 ※幼稚園教諭

一般目標: 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。

- 到達目標:
- 1) 幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
 - 2) 保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。
 - 3) 学級担任の役割と職務内容を實地に即して理解している。
 - 4) 様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。

<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>